



公開研究発表会が近づいてきました。保護者の皆様に、その概要をお知らせいたします。今までもこれからも、子どもたちと私たち教職員、日常の学習活動を積み重ねています。

令和3・4・5年度 山形市教育委員会委嘱〔学習指導〕

公開研究発表会

研究主題

自己の学びを創りあげていく子供の育成
～個別最適な研究で「対話」を探る～

令和5年10月4日(水)

日程

13:15	13:30	13:45	14:00	14:45	15:00	15:20	16:20	16:30
受付	CCT (下記)	移動	授業公開 (下記)	休憩	全体会 (K 研究主任)	分科会	閉会	

公開 CCT(クラスカルチャータイム)

1年1組	K・Y
3年2組	S・K
6年1組	J・S

CCT(クラスカルチャータイム)とは?

安心して学ぶことができる教室をつくるため、お互いを認め合うあたたかい学級風土をつくるために、昨年度から本格的に取り組んでいます。それ以前は“さくらタイム”というスピーチ活動で、お互いをわかり合う素地づくりを行ってきました。そのスピーチ活動も含めて、更にお互いが仲良くなれるよう“構成的グループエンカウンター”などを行っている時間が「CCT」です。週に一度、学級の実態に合わせ、各担任が内容を工夫して実践しています。

公開 授業

学年学級	教科等	単元名・題材名	授業者	助言者
4年1組	算数	がい数の使い方と表し方	M・K	市教委 S・T 指導主事
5年2組	国語	想像力のスイッチを入れよう	A・H	市教委 H・Y 指導主事
たんぼぼ3組	自立活動	ハプニングをクリアしよう	F・T	市教委 N・E 指導主事

【授業研究】〔*1〕

各学年各学級の担任は、自分の授業を公開し、お互いに見合い、学び合うことを繰り返しています。授業後の話し合いでは、子どもの姿の事実をもとにお互いの見方や考えを出し合います。よりよい授業づくりに向けて、授業者と参観者の成長を促進する場です。授業後の仲間からの声に加え、教育委員会指導主事からも助言をいただき、それを自分の中で咀嚼・消化して、自分を太らせ、また新たな自分となって子どもたちの前に立つ……。このような授業研究を、毎年、日々、続けています。

この日常の授業研究の一部を、このたび10月4日（水）、他校の先生方にも参観してもらい、ご意見をいただき、今後の授業づくりの糧にしようというのが、公開研究発表会です。

【校内研究・市公開研究発表会 最近の歩み】

年度	本校の動き（研究の取り組み概要）	市委嘱 公開研
令和 2年度	<p>コロナウイルス感染症拡大。「休校」からのスタート。学校授業再開は6月。2ヶ月の遅れを取り戻すべく、“学習進度優先”で、どんどん授業を進めることにした。“グループ活動制限”“合唱等声を出すことの制限”など、子どもたちの活動は大きく制限された。「関わり合う」ことを研究しようとしていた本校では、コロナ禍での制限は痛手。研究への取り組みは緩やかなものに。</p>	<p>この年度は公開する学校「なし」</p>
令和 3年度	<p>通常の学校生活はまだまだ。多くの制限が続く。「対話」を焦点にした授業研究は続く（教室に多数の参観者が入れない状況のため、リモート配信でお互いの授業を見合う）。外部からの講師を招くことは難しく、数少ない実施。山形大学のM・T教授とM・T准教授から、これからの授業づくりへの助言をいただく。他校の先生からも講師として助言をいただく。他校の授業参観から学ぶことはできず。</p>	<p>委嘱されていた学校は「紙上発表」だけ。参集せず。 山七小 蔵王一小</p>
令和 4年度	<p>制限はあるものの、通常の学校生活に戻りつつある年度となる。お互いの授業公開〔*1〕の他に、外部講師を招いて、研修会を重ねた。 ①S・S先生（県スクールカウンセラー）からは、学びを支える温かい学級風土づくりについて、演習を通して学んだ。毎回のCCTに生かされている。②H・T先生（FR教育臨床研究所所長）からは特別支援教育力の向上に対して激励を受けた。「気になるお子さんはたくさんいるのだ。担任が特別支援教育の知識を持ち、対応力を身につけることが極めて大事だ。」③F・S先生（元上山市教育長）からは授業づくりに立ち向かう心を学んだ。「下手な教師の授業のせいで体育嫌いがつくられる。これは体育に限ったことではない。子どもの事実を、教師の指導力と直結しているのだ。」④M・E先生（山形大学教授）からは国語科を窓口にして「対話」等について学んだ。「自分の考えを持てる子どもに育てる。他者の言葉に耳を傾ける力を小学校で。言葉にして伝え、相手の反応を見つめることで自分を見つめ直す、そのような対話を。教育活動の準備時間を確保することが大事で、それは校長の責務だ。」— 経験や年代により、その受け止め方は様々。教えをかみしめながら、教師としての暮らし、学び、実践を刻んでいる。</p>	<p>公開する学校への参観者は各校から一人のみという制限。リモートで授業公開する学校もあり。 山十小 滝山小 千歳小 山八中 高楯中</p>
令和 5年度	<p>（5月連休明けからは）通常の学校生活に戻る。外部へ出かけていくことも大幅に制限が緩和され、他校へ出かけ、参観した実践から学んだ者がそれを還元し、授業づくりに生かしている。 CCTを積み重ね、お互いを認め合うあたたかい学級風土づくりが進んでいる。1学期中に、各学級、授業を公開した〔*1〕。 10月4日は、他校参加者も含め、相互触発を通して「授業する者」としての成長を促進する場となる。</p>	<p>リモートでの公開はなし。参観者数は学校に任せられる（桜田小は各校から2名を基本とする） 桜田小・山十中 蔵王二小</p>